

筑後広域公園モニユメント計画策定検討会議（第2回）

会議資料

目 次

1. 第1回検討会議確認事項	1
2. モニユメントの内容について	3
2-1. アートゲートモニユメント	5
2-2. 冒険小屋	8
2-3. 有機的モニユメント	11



令和3年3月30日

1. 第1回検討会議確認事項

1-1. モニメントの整備方針について

了承事項

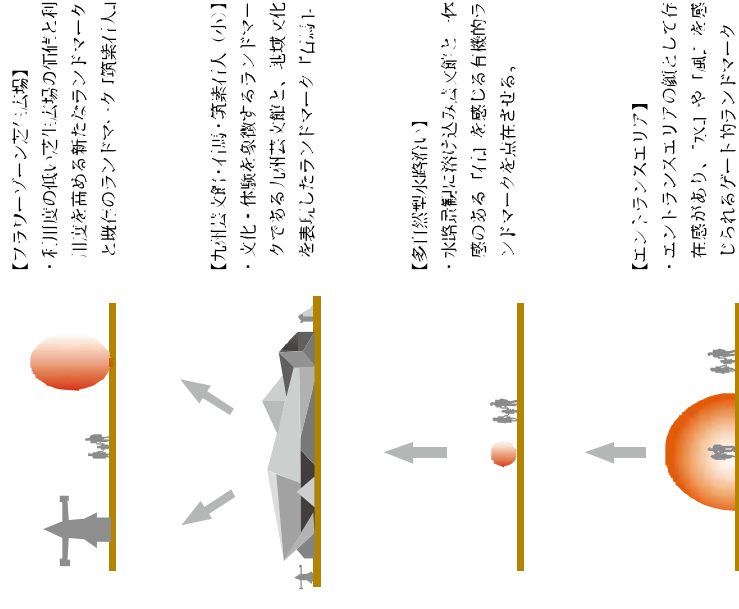
- 公園の景観要素を活かし、景観に調和した色相・彩度によるデザイン検討
- 筑後地域、及び筑後広域公園を取り巻く環境特性を活かしたキーワードの抽出
- 2つのゾーンをアートでつなぎ、統一感のある結びつきを強化するアイコニックモニュメントの配置・形成
- 現状の地形的特性や冠水を想定し、耐候性に配慮した素材と構造の検討

1-2. モニメントの設置位置について

了承事項



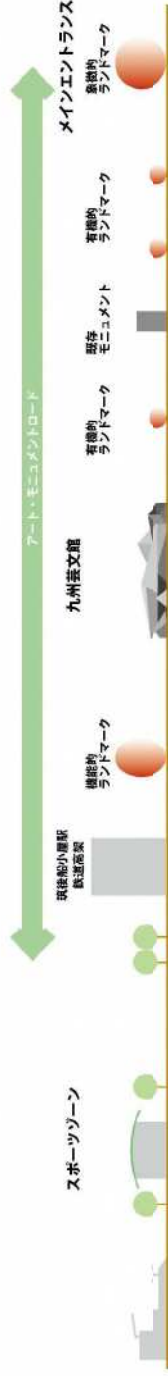
「ビスタ形成イメージ」



□配置・動線計画(案)



1-3. モニュメントの内容について

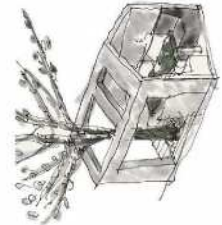


□ 冒険小屋

【フラワーゾーン芝生広場】

- ・フラワーゾーンの「樹人」を活かし、わかり易くピスタを形成する遊びの要素があるランドマーク

日陰小屋イメージ案
ツリーハウス



日陰小屋イメージ案
樹木と 木の休憩小屋

継続事項

公園の緑や集いの場
能き活かし、公園の
中でより、憩える機能
を併せ持つランド
アート



日陰小屋イメージ案
デッキやハンモック

□ 有機的モニュメント

【九州芸文館に近い多自然型水路沿い】

- ・水路景観に溶け込み芸文館やランドマークモニュメントと一体感ある有機的ランドマークを点佐させる。



モニュメント素材のイメージ案
子供に馴染みが深いもの



モニュメント素材の
イメージ案
暖かく方向性を導く工者

了承事項

- ・有機的モニュメントの素材は石材とする。
- ・テーマは、豊かな自然環境に生息する「生き物」や筑後地域らしきとする。
- ・作家は、福岡県にゆかりの深い石彫作家として、「中村信喬」氏と、技術伝承の観点から、その継承者の「中村弘峰」氏でプロジェクトチームを形成する。
- ・最終的なモチーフは、他の建築・モニュメント等の構成を考慮しながら、キュレーターと作家の協議と独自性に委ねる。

継続事項

□ アートゲート

【エントランスエリア】

- ・エントランスエリアの顔として存在感があり、『水』や『風』を感じられるゲートのランドマーク

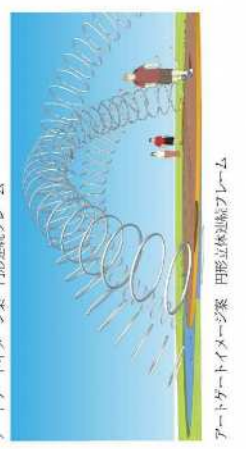
芸文館のアート性と
建築構造を考慮して
存在感を演出する
ランドマーク
が出来るように
中を歩けるなど
の動線機能を持つ



アートゲートイメージ案 四角波紋フレーム



アートゲートイメージ案 「円形波紋フレーム」



アートゲートイメージ案 円形波紋フレーム

2. モニュメントの内容

第1回検討会議で継続事項となった、アートモニュメントの最終スケッチについては、今後の実施設計、工事、公園全体の空間構成等に大きな影響を及ぼすことが考えられます。

このため、検討結果について、九州芸文館第1期アート計画のプロデューサーであり、本業務のキュレーターを務める伊東順二氏に空間構成を踏まえた基本イメージ作成を依頼し、その結果を本検討会議への報告といたします。なお、検討の過程において、「アートゲート」、「冒険小屋」は、構造的な問題から「建築物」として捉えなくてはならないことが指摘され、以後、この2つは「建築アート」として、有機モニュメントは「モニュメント」として整理することを付記いたします。

伊東 順二 JUNJI ITO

東京藝術大学 社会連携センター特任教授・COI拠点サブプロジェクトリーダー／美術評論家／アートプロデューサー／富山市ガラス美術館 名誉館長

1953年長崎県諫早市生まれ。早稲田大学仏文科大学院修士課程修了、仏政府給費留学生としてパリ大学、及びエコール・ド・ルーブルにて学ぶ。1983年日本帰国まで、フランス政府給費研究員として、フレイジエ市庁美術館部門嘱託委員(1980)、「フランス現代芸術祭」副コミッショナー(1982)などを歴任。

帰国後、美術評論家、アート・プロデューサーとして、アート、音楽、建築、都市計画など分野を超えたプロジェクトを多数手がける。仏政府より「芸術文化勲章(シュヴァリエ)」受章(2002)。

1995年 第46回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー
1997年 パリ日本文化会館補席として企画「デザインの世界」展コミッショナー
1996年・1998年 「フレイジエモリス・アートアワード」キュレーター
2000～2001年 「文化庁メディア芸術祭」審議委員兼企画展プロデューサー
総理府「新千年紀記念行事国の行事部会(インターネット博覧会)」委員
2001～2003年 阪神淡路産業復興推進機構「デジタルコンテンツポート構想推進会議」総合プロデューサー
2002年 「The New Way of Tea」展(NY・ジャパンサティエ、アジアソサエティ開催)キュレーター
2002年 パリ日本文化会館「ひととロボット」展 企画委員
2004年～2007年3月 長崎県美術館館長

「富山水辺の映像祭」総合プロデューサー

2006年～ 2008年～2012年 「金屋町楽市」(富山県高岡市)実行委員長

2010年～2013年3月 東京藝術大学大学院非常勤講師

2010年 第1回「金沢・世界工芸トリエンナーレ」キュレーター

2011年 福岡市「アイランドシティまちづくり戦略会議」アイランドシティ・未来フォーラム」委員

2013年4月～ 東京藝術大学 社会連携センター 特任教授

2013年4月～ 東京藝術大学 COI拠点 サブプロジェクトリーダー

2013年～2014年 「九州芸文館」アートプロジェクトプロデューサー

2013年～2014年 宮廻正明「トウールピヨ」展キュレーター

(ブダペスト国立歴史博物館・リスボン東洋博物館・ピッツィ宮蔵近代美術館開催)

2015年8月～ 富山市ガラス美術館 名誉館長

2017年 「再現 糸淵三尊像展」飛鳥が告げる未来」キュレーター

2016年2018年 福岡県・福岡市「セントラルパーク基本計画検討委員会」委員

2019年 「大手町アートラトリーズ」ディレクター・キュレーター(2020年度グッドデザイン賞受賞)

2020年～ 「新・福岡県美術館基本計画策定委員会」会長

パリ日本文化会館運営審議委員、国際茶道文化協会理事、日本ヴァーチャル・リアリティ学会評議員、

富山市政策参与、高岡市魅力創出アドバイザー、富山県美術館運営委員、富山県水墨美術館運営委員、

富山市ボスター選定委員、

■第1回検討会議で了承された景観に関するキーワード

水

筑後地域を象徴する「筑後川」、対象地を流れる「矢部川」や「神端川」など、度重なる水害に悩まされながらも、「水辺」や「水」というキーワードは対象地には密接に関わり欠かせない景観キーワードである。



風

対象エリア内、及び対象地周辺には、風景を造るような構造物はなく、広い空が広がり、木々の間や様々な広場、道路沿い、多自然型水路沿い、矢部川堤防沿いなど、園内のあらゆるシーンで「風」を感じることができる。



森

矢部川沿いの森をはじめ、園内には八幡神社の鎮守の森が内包されており、園内の樹木も、将来的には大木となり、豊かな森を形成することが想定され、その木々や「森」は対象地の重要な景観キーワードである。



石

エントランス周辺から九州芸術館を結ぶルート上において、多自然型水路の自然石護岸や景石を中心として、芸文館周辺の石彫モニュメントなど、随所に見られるのが「石」であり、対象地の景観を形成する重要な景観キーワードである。



2-1. アートゲート

- ・筑後広域公園の新たな魅力であるモメントパークとアートロードを予感させる「アートゲート」
(ロケーションに負けない力強さと風を感じさせるしなやかさ)

アートゲートイメージパース



©伊東順二事務所

芝生広場の入り口に位置する建築は訪れる人々を迎え入れる文化と芸術のゲートになります

アートゲートイメージパース



©伊東順二事務所

高さ 10m程度

水に浮かぶ軽やかな二重らせんは、空、風、水に呼应し、大地と人と風景をつなげます

※水盤はあくまでもイメージであり、今後、現地の状況に合わせて変更することがあります



耐久性の高いステンレス



矢部川流域の地元の土



ステンレスメッシュに土を吹き付けた作品事例

モニュメント：地元の材料をもちいた**耐久性の高い素材**

立体的ならせん形状のモニュメント部材には耐久性の高いステンレスをもちいます。
 地面に接する水に近い部分には、通常使われているSUS304より耐久性の高いステンレスをもちいる予定です。
 ステンレス表面には、公園周辺の土や砂を混ぜた塗料を塗る予定でさらに耐久性を高めるとともに、
 筑後の大地との親和性も高めます。

©伊東順二事務所

2-2. 冒険小屋

- ・小さな子どもをつれた親子が安全に森の中の生活を楽しめる冒険小屋を配置します

冒険小屋イメージパース



芸文館のかたちに応じた膜屋根の冒険小屋を木立の中に配置します

冒険小屋イメージパース



地域の素材や織物の技術を用いた膜材によって子供の遊び場をやわらかく包みます



地元の素材や久留米絣などの織物技術を活かしてつくる膜材

久留米絣は筑後地方に伝わる綿織物で、にじんだように見える柄のズレや独特なかすれ模様が特徴です。

これらの地元の織物の技術や特徴、筑後地方の素材を活かした膜材を検討します。

©伊東順二事務所

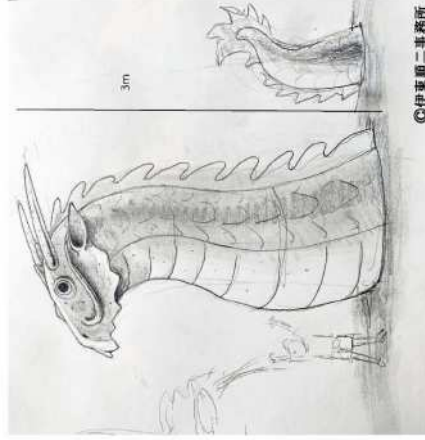
2-3. 有機的モニュメント

- ・ 第1回検討会議で選定されたイメージなどから、アートゲートや九州芸文館とのつながり、配置する場所の特性等を総合的に判断し、最終的な作品の制作を作家に依頼する予定です

龍の石柱

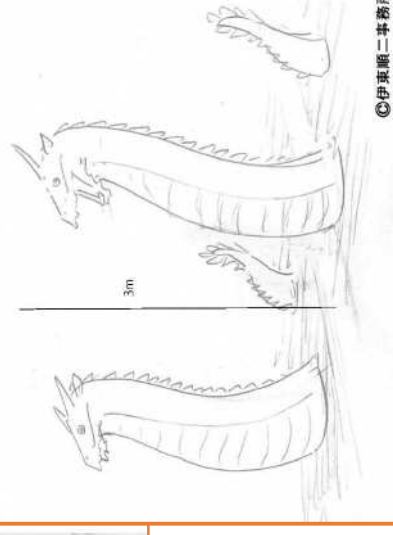
矢部川を挟み連座する二つの釜屋神社にはそれぞれ龍神（タケイワタツノミコト）と同象女神（ミツハメノメノカミ）という女神が祀られています。

元はひとつだった御社が堀川藩と久留米藩に別れて別々に祀られるようになったのかもしれません。
河川そのものを象徴する龍のモニュメント。



©伊東順二事務所

龍の石柱

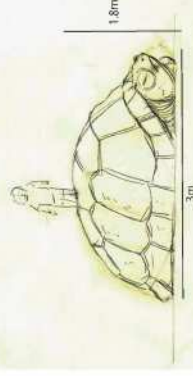


©伊東順二事務所

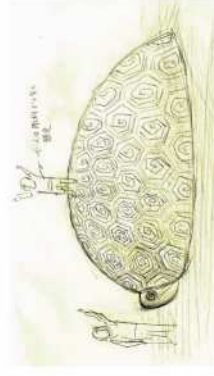
四神（あうん）の龍のモニュメント

イシガメの石像

「石亀（せっしゃ）」
亀は古来長寿の象徴として愛されてきました。また、寛（かめ）と同音と
いうこともあり、河川の水利や橋の広さをイメージさせます。

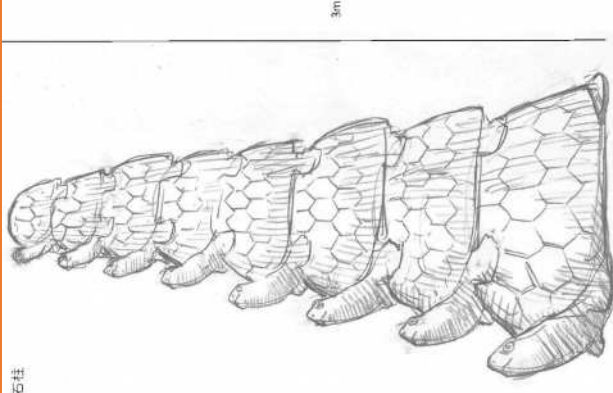


©伊東順二事務所



©伊東順二事務所

イシガメの石柱



©伊東順二事務所

動物イメージのドローイング

トンボ



サワガニ



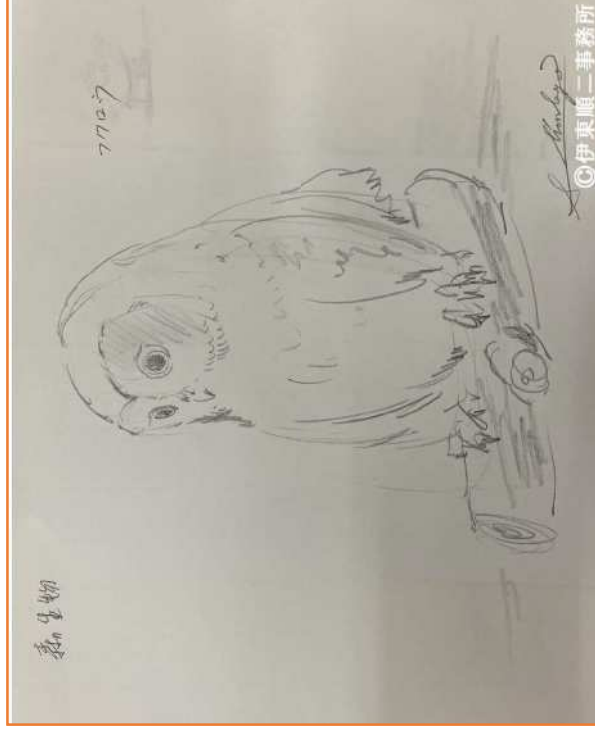
石鵜 カイツブリ

筑後川流域に生息している水鳥である。ほとんどを氷の上で生活し子供を背中に乗せて外敵から守ると言う鳥で、筑後の人々から「キーツグロ」の愛称で呼ばれ親しみのある鳥である。水鳥の多いこの地域に住む子供達を守るものとしての象徴。

鯉



動物イメージのドローイング



(公印省略)

3 公 街 第 1 5 号
令和 3 年 4 月 6 日

学校法人 中村産業学園
理事長 津上 賢治 様

福岡県建築都市部長 永山 慎治

筑後広域公園モニュメント計画策定検討会議（第2回）の書面表決結果について

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

筑後広域公園モニュメント計画策定検討会議（第2回）の書面表決の結果について
下記のとおり報告します。

記

書面表決議案

議案1	第1回検討会議確認事項	賛成5、反対0
議案2	モニュメントの内容について	賛成5、反対0

以上の結果により、議案は承認されました。

<事務局>

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
福岡県建築都市部公園街路課（担当：川崎）
TEL:092-643-3725 FAX:092-643-3752
e-mail:park@pref.fukuoka.lg.jp

令和３年３月３０日に書面開催しました筑後広域公園モニュメント計画策定検討会議（第２回）の表決結果について別紙のとおりご報告いたします。

今回ご議論いただいたモニュメントにつきましては、速やかに設置できるようにイメージパースを基に設計等を行い進めていきたいと考えています。

今後も筑後広域公園の更なる魅力向上を図り、公園利用者に楽しんで頂けるように整備、維持管理に取り組んでいきたいと考えています。

委員の皆様におかれましては、年度末のお忙しいところご協力いただきありがとうございます。ございました。

福岡県建築都市部公園街路課

川 崎